

E.R.F.C.

Newsletter 2002 vol.5

【ユーザ車検(ライン)体験記】

きっかけは失笑師匠こと、だんなさんの「今年はしのぶがラインを通すんだよ」の一言でした。そういえば 2 年前にもそんな話はでたものの、どうしてもわたしが休みを取れずに行けなかったんだっけ。とはいうものの、わたしは運転するだけの(洗車すらしない)全くの素人。だんなさんの「横についてるから大丈夫だよ」の言葉を真に受けて、陸運支局でのユーザ車検(ライン)を通してきました。

まずは事前準備。陸運支局で検査の予約を取ります。神奈川県の場合、予約専用の電話窓口があるので、そこで午前か午後の枠で予約をします。次に書類に必要事項を記入します。検査票、重量税納付書、マークシート 3 号様式(これは有料で、たしか 30 円)の 3 点。これらは事前に入手できなくても当日に窓口で「ユーザ車検セットを下さい」と言えば購入可能です。整備記録簿にも忘れずに記録。

そして当日。重量税印紙、検査印紙(要は手数料)を窓口で購入。納税の確認。この日は納税証明書を忘れてしまったので用紙に記入。登録番号を申請して、端末で調べてもらいます。未納ならここでの納付も可能です。ここまでは、陸運支局の事務所ではありません。

次に陸運支局の事務所に移動して受け付けをします。車検証、整備記録簿、重量税納付書、マークシート、検査票(ラインを通しながら検査の可否を記録していく)を揃えて窓口に提出します。検査官のおじさんに採点をしてもらい、不備が無ければ、いよいよ本日のメインイベント！ラインでの検査です。でも、その前にホイルのセンターキャップをすべてはずしてこれで準備 OK です。



わたしが初めてだったので、まずは車を邪魔にならないところに停めて、ラインの見学をしました。3 番ラインにいた検査官のおにいさんと「(師)見学させてください」「(検)いいですよー。車種は、なんですか？」「(師)ロードスターです」「(検)じゃあ 6 か 7(はじっこ)がいいですね」「(師)えー、いつも 1 番なんですよ。」「(検)そうですか。それでもいいですよ」とかなんとか話をし、他の人のラインを見学しました。他の人が検査を受けている姿を見ながら、(師)が「ここでこーしてあーして…」と説明してくれたけど、んなもんいっぺんで覚えられるかい！！と思いつつ、混乱したままラインへ突入です。

車をラインの所まで動かして、結局、3 番に並びました(その判断基準は謎)。まずは電気周りの検査。「(検)ライトつけて」「(私)っ！う、ライトっ！」「(検)ウinker、右い、左い、(後ろに回って)ブレーキ踏んで、右い」「(私)！！」「(検)ハイビーム」「(私)！！！」もう既に軽いパニック状態。ワン

テンポ遅れて反応しています。「(師)ボンネット開けて」「(私)ボンネット開けるのはどこ？！」(検)が車体番号と原動機の型式の確認。かんかんとしてホイルを留めているボルトを叩いて、きちんと締めてあるかの確認(これのためにホイルキャップをはずすのです)と、地上高を計ります。「(検)窓を閉めてください」ラインに入るのには窓をあけていてはいけないのかしら？と思いつつ窓を閉めたら「(検)オープンでもたまーに、フィルムを貼っている人がいるんですよ(笑)」だそうです。ああなるほど。

と、ここまででやっとラインに入る前の審査は終了です。

次は、いよいよラインです。今度は人ではなく機械(人も見えますが)なので更に緊張の度合いが高まります。基本的に、検査

する装置まで進み(信号もあるし停止線も書いてあります)、目の前にある指示板に従い操作するだけなので難しいことは何も無いはずなのですが、それでも初めてのことで緊張しまくります。もし、うまくいなくて不合格になっても、もう一度並び直して通すことは可能だそうです。

最初は、フロントタイヤを装置に乗せてサイドスリップとフロントブレーキの検査。OKのライトが点くまで待ちます。その間、窓全開だしエアコンもかけっぱなしだけど、いいのかしら？なんてアホなことを考えていました。前進して同じ装置にリアタイヤを乗せて、リアブレーキとサイドブレーキ(駐車ブレーキと書いてある)の検査。OK が点灯してひとつめの装置は終了です。

前進して、次はスピードメータの検査。聴力検査の時に使うスイッチのようなのを(師)に渡され(ひとりで行う時はぶらさがっているのを自分で取りにい)、ギヤをセカンドにいれ、アクセルをじわじわ踏みスピードメータが



40kmを指したらボタンを押す。たったこれだけのことなのですが、何をやってるかわからずに、上の指示板(ブレーキ踏む/はなすと
かかいてある)をひたすら凝視。(師)に「40kmになったらボタン押して」と言われて我に返り、目的を思い出しました。なかなか 40km
に落ちつかないのだけと多少くらいの誤差は気にしないで大丈夫だそうです。

OKが点灯して、前進。ヘッドライトの光軸の検査。「ハイビームにして」と(師)にいわれて、ついパッシング。(師)パッシングじゃな
くてハイビーム、むこうに押して、と言われました。どうも、ラインには入る前にも間違えていたらしいです。目の前を大きい鏡のような
装置がぐーっと横方向に移動しています。その間に、(師)は後ろに回って排気ガス(CO と HC)の検査。過去、(師)はひとりで行っ
ていたので、人の乗らない状態で光軸の検査をすると、どうにもクリアしなかったらしいですが、今回は一名乗車状態だったので一
回でOKでした。

OKが点灯したのを確認し、前進。最後の項目の下回りとハンドルの遊びの検査です。ラインの下に人の潜れるスペースがあっ
て、そこからおにいさんが見ています(もちろんわたしからは見えない)。フロントタイヤの乗っている板ががっこと動いて、ハン
ドルが勝手にぐらぐらと動きます。(1番だと自分でぐりぐりと動かすらしいです。)そしてOKが点灯。前進して、ラインから出たところ
で記録をして、ラインでの検査項目は以上終了。「うおおお〜。終わったあ〜」

受け付けをした事務所に戻り記録した検査票他書類一式を窓口へ提出すると、新しい車検証とステッカー(検査証票)を交付してく
れるので、これで車検は完了となります。

平日の午前中で空いていたため、待つこともなく、時間にして20分くらいでしょ
うか。ラインなんて実際は3分くらいなもの(師)は言いますが、わたしはもう少しかか
ったような気がしました。(それでも5分くらい?)最初は誰でもパニックになるらしい
です。初めて行かれる方は、混雑していない、月初、午前の早めの時間に行かれ
ることをお推めします。後ろに列ができていなくてもプレッシャになりますからね。

ここでの支払いは、重量税印紙25200円(1t未満2年間)。検査印紙1400円。
整備さえきちんとできていれば、陸運支局でやることはほんとうに少しだけです。そ
れに何よりも楽しかったです。次回はもう少し落ち着いてできるでしょうか。といっ
ても2年後なのできつと無理でしょうね。(おおはしのぶ)



【初心者の方、またまた番外編！】

ひょんなことからマツダが満を持して発表したRX-8のジブツに触ってきました。今回はその一部始終と顛末を報告させていただきます。では早速…、「またまた番外編！事務担当のやまの初心者の会—LAの空は青かった、RX-8は赤かった？編—」はじ
まりはじまりい。

11月のとある晩、一本の電話が我が家に掛かってきたところから全てが動き出しました。「マツダの狩野と申すものですが…、」た
またま家に居た妻は、お世話になっている埼玉マツダ北浦和店(いつも清里ミーティングにご協力いただきありがとうございます)からの
電話だろうと思っていたのですが…、「ご主人がLAモーターショーへのモニターツアーに当選されて…、奥さんも一緒に行
けますよ。」え？うそ！まじ？いたずら？とプチパニック。

ご記憶の方もいらっしゃるかもしれませんが、WEBサイトで募集していたRX-8のメールマガジン読者向けに、昨年秋に行った懸
賞に当選したようなのです。そもそも本人が懸賞に応募してたことなんて忘れていたし、だいたい懸賞に応募したことなんてイチイ
チ妻に報告してませんから、彼女は知る由もなし。私も帰宅時にした電話で聞いて、正直言って半信半疑でした。

でも、当選通知メールが届き、なぜか翌日には広島佐竹氏から祝福メールが届き、旅行に関するパンフレットが届く頃には漸
く現実味が出てきて、落ち着いていろいろ読んでいたらさあ大変！旅行開始はなんと1/6。世間では年始の仕事始め。え？
正月休み明けから一週間の休暇申請？エエ！んなことあ構っちゃ居られない、こんな機会めったにないんだから、もう、GO！G
O！です。

あたふたと準備をしているうちに、年末には最終案内も届き、いよいよ臨戦態勢。ただ、モニターの条件でもある「レポートを書け」と
いう一点だけに不安を残しつつ、出発日を迎えました。

上司からの厳しい要求で1/6の午前中はひとまず出勤、お昼休みの合図と共に一目散に駅へ走り、スーツ姿のまま電車で成田
へ向かいます。二日前に発送しておいた荷物を受け取り軽装に着替えて、無事にチェックイン、チケットを受け取って荷物を預け、
携帯電話の電源を切って会社からの追跡を振り切り(ナイナイ！)、ついに全日空の6便で
テイクオフ！4泊6日のロサンゼルス旅行が始まりました。(ちなみに席はエコノミーの後ろ
の方でしたよ。)

追い風順調？で8時間半のフライトの後、日付上は同じ日の午前中にあたるロサンゼルス
に無事到着。いやあ暑いなんて思いながら名前の書かれたプラカードに従って行くと、
そこには既に今回一緒する3組6名(当選者は私達を入れて5組10名だったのですが、
一組キャンセルされたそうです。)が疲れきった表情でお待ちでした。我が家に喜びと驚き
の第一報をもたらした狩野さん(マツダのインターネットマーケティング部)ともご挨拶。なん
と抽選をされたご本人とのこと。思わず拝みそうになりました。ちなみに長身のナイスガイっ
す。こうして、我々夫婦を加えた計9人の、なんとも不思議な組み合わせのショートトリップ
が始まりました。

まずはお決まりの市内観光と聞いていたので、この人数ですし、どこかのツアーと共同なん
だろうなと思っていたら…、貸切！しかも用意されていたのはこんな(写真)バスだったので
す。今回の旅行、9人での移動が最大の数なのに。でかすぎ！と思ったのですが、これ
より小さいバスでも値段は変わらないので乗り心地などを考えてとのこと。市内観光はお決
まりかな？と思っていましたが、サンタモニカからチャイナタウンの昼食、ドジャースタジアム
(とっても気持ちの良い場所でしたよ！)、おなじみチャイニーズシアターと巡りました。



車中から外を眺めていると、添乗のおじさんがいろいろ教えてくれましたが、どんなお年寄りでも歩く代わりに車に乗るので出会い頭の事故が凄く多いとか、そもそも不便なところが高級な住宅街になり治安がいい、便利なところは治安が悪い、とか…文化ってホントに違いますね。

車は(当たり前なんだろうが)ホントに一杯走っています。片側6車線とかあるフリーウェイで車が途切れることはありません。うれしいことに、ロードスターはたくさん走っています。さすがメインマーケットだけあります。黄色とかマ alun 色のNB、もちろんNAもたくさん。どちらかというとNAを多く見ます。色は赤が多いです。だいたいオッサンに近い年齢の人が運転してましたね。殆ど例外なくオープンで走っていて、ハードトップは殆ど見ませんでした。あんまりスゴイ改造は見れませんでした。

ロスのメインストリートと言われるウィルシャーブルーバードは、西は高級ホテル(映画「プリティウーマン」のビバリーウィルシャーホテルとか)やブティックが並び、東はダウントウンのビジネス街があり、市の施設や美術館なんかもあるのですが、その間にカーディーラーも並んでいるんです。BMWのZ3が3台にボルシェが並んでいたり、日産車のディーラーやスズキのディーラーもあったり、当然フェラーリなんかも売ってます。日本のメインストリートとは相当イメージが違います。

市内観光後、ようやくこれからお世話になるホテル(ビバリーヒルトン)へチェックイン、一休みの後、レストランで決り集会?と夕食となりました。ここでMNAO(Mazda North American Operations)のインターネットマーケティングにお勤めの貫名さんが合流、合計10人で食卓を囲みました。この場で今回の旅の概要の説明を聞いたあと、なんとRX-8のプロモーションビデオを見せていただきました。いやあ、この車のターゲットがどこにあるのか、すごくわかるビデオです。ただ…、最近CMで見たスカイラインクーペのCMとちょっとイメージがかぶるんですよ。もちろんこれは帰国してからテレビを見て思ったのですが。ストーリー的には、子供の頃からスポーツカーが好きだったけど、大人になって子供ができて、なかなかスポーツカーに乗れないよね、でも…、みたいな展開なんです。先に出されちゃいましたね、狩野さん!我が家は子供も居ない今まさにスポーツカーに乗ってるけど、そのターゲットはズバリ私たちの世代だったようで、ちょっとお酒も入っていたせいか、映像に見入ってしまいました。

さて、ようやく今回の旅行のメンバーの構成がはっきりします。浜松から参加されたN氏とご夫人、札幌から参加されたOさんとお友達のBさんの女性二人組み、横浜から参加されたMさんとその息子さん(24歳タップダンサー)、そして我々。さらに広島のマツダから狩野さん、現地で合流された貫名さん。(顔ぶれはRX-8のメンバーサイトでちらっと見られます。)ちなみにN氏は元年式のロードスター(マリナブルー!)を大切に乗り続けているようで、歳も近かったせいか楽しくお話させていただきました。もちろんERFCも宣伝しましたよ。さらにMさんは車歴がすごい。詳しくは忘れちゃいましたが最近までFCのカブリオレに乗っていたそうです。面白かったのはBさん。なんせクルマに全然興味が無いとか。そのBさんを連れてきたOさんは逆に「男はスポーツカーに乗るべきだ!」と力説されました。

こうして長い長い一日目が終わり、いよいよ翌日はLAモーターショーへ!LAモーターショーの会場はダウントウンにあるコンベンションセンター。幕張よりは小さいです。すぐ横にはレイカーズの本拠地であるステイブルセンターがあります。入場料は5ドル。平日は午前11時から午後10時まで、金曜日と土曜日は夜10時半までやってます。土曜日と日曜日は朝9時から開いています。会社や学校が終わってからも見られるわけです。この辺、日本でも少し参考にして欲しかったりしませんか?当然ですが駐車場もビルになっています。



早速会場に入ってまずはマツダのブースを表敬訪問。お目当てのRX-8が二台置いてありました。一台はコンセプトカラーでもある赤。キレイな赤です。もう一台はターンテーブルに乗っている、少しグレイの掛かった青。これは映画XMEN2に出てくる車だそうで、エアインテーク、ヘッドランプ、サイドのエアアウトレット、テールランプ、テールパイプ、インパネのセンターにちょっとした装飾がほどこしてあり、リアにはドーンとウィングが乗っていました。ホイールも専用だったようです。

まずは、今回特別にこのターンテーブルへ上げてもらえたので、XMENカーをサワリまくりです。基本的にはハイパフォーマンス仕様のままで、内装も特に変わってないようなので、基本的な感想は一緒なのですが、ボディカラー結構イケルと思いました。でもこれ設定にないんですね…フロント周りの意匠は少しうさかなと思いましたが、リアのテールパイプ周りの装飾は結構好きでした。ウィングは、まあ、映画用ですからね。

次に、フロアへ降りて、赤のハイパフォーマンス仕様へ。225/45の18インチタイヤがホイールアーチときれいにあって、いい感じです。ちなみにタイヤBSのポテンザRE040でした。一通り周りをぐるぐる見た後、いよいよ乗りこみますが…、やっぱりこの観音開き、インパクトありますね。開き方は特に凝ってるわけじゃないのですが、開口部の大きさはわかっていても驚きました。フロントからリアに貫かれているセンターコンソールはエボルブのように構造材そのものではないものの、アルミ調の装飾が施され、印象的です。

へそ曲がりのつものやまは、いきなりリヤシートへ。スポッと納まってドアを開けると…、え?こんなに広い?オドロキです。前述の通り、センターコンソールがあるので席の移動はできないのですが、シートのスペースそのものは十分。何か妙に居心地がいいのは恐らく適度な包まれ感があるからでしょう。この辺は感じ方に個人差があるので是非一度座ってみてください。そしてソコで気づいたのですが、この展示車は電動シートだったらしく、スライドもリクライニングも試せなかったのですが、シートポジションは目イッパイ後ろにあったのです。それを知って更にオドロキ!改めて後ろに座りなおしちゃいました。やっぱり広い!うーむ。





ひとしきり驚いてからフロントへ。当然左ハンドルなんですけど、3時と9時の位置が赤いステアリングで、赤い革がアレンジされたシート。座り心地も悪くないです。エアコンやオーディオのコントロールパネルは、艶ありの黒（ピアノブラック調？）を基調にしたもので、○を施したデザインでした。同じ黒がドアにも使われてます。凝ってるのはセンターコンソール。シフトの後ろにシートヒータのスイッチ、更にその後ろに蓋があるのですが、この位置では蓋が開かないんです。まずは蓋を後ろへググッとスライドさせます。するとそこには2人分のカップホルダーが登場。そしてココまでスライドするとこんどはパカッと蓋が開いて小物入れが出てきます。更にその後ろが、後席のカップホルダー…。結構凝ってます。フロントシートのヘッドレスとの穴はおむすび型。これに限らず、実はあちこちにロータリーマーク？が配置さ

れてます。キットこれを数える人がいるんでしょうね…。中を一通り見まわしてから、改めて外から眺めます。中の意外な広さを実感してしまうと、そのコンパクトさが一層際立ちます。写真で見ると、結構ボリュームがあるように見えるのですが、実際に見るとかなりシャープで、車高も低くスポーツカーだなあって思えます。ほんとにリアのどこに人が座るんだ？って思えるのですが、いやあ、写真写り悪いですよこのクルマ。実物の方が全然いい。デコラティブなクルマだから仕方ないんでしょうが、フロントのフェンダーなんて写真で見ると全然カッコイイと思います。（まあこの辺も好みがあるので、あくまで私の意見です。）一通り見た後は、記念撮影（これもウェブサイトに掲載されているようです）して、夕方まで解散。自由に見学となりました。

欲張りな私は妻を引き連れながら、一応一通り見てきました。人が集まっていたのは、日本車だと日産は話題のスカイライン

クーペ（現地ではインフィニティブランドです）やムラノ（SUVです）、それにZ、トヨタやレクサスはあまり人だかりになってなかったなあ。あとは我がマツダのRX-8。人気でしたよ。他はVWのビートルのカブリオレ、リンカーンのRV（レンジローバーみたいな奴）、各社のピックアップトラック、マイバッハあたりを見てる人が多かったですね。あ、それと世紀の発明品？セグウェイ！見ちゃいましたよ。いやああれ不思議な乗り物ですね。自立する二輪車。スイスイ動きます。しかも結構速い！乗ったかったなあ…。あとバットモービルやボンドカーなんかも飾ってありました。

途中スタバのコーヒーを飲んだくらいでお昼も食べずに歩き回ってパンフレット集めて…、日本で見てると一緒なんですけど、日本のモーターショーとの大きな違いがいくつかありました。まず、時間帯とチケット代の安さも原因でしょうが、子供連れ、家族連れがとても多いです。見に行ったのは火曜日なんですけど、老若男女問わず、朝からみんな家族で来ているようです。ほんとにクルマが生活に密着してて、かつ、好きなんですね。次に、殆どのクルマがフロアに置かれて触ったり乗ったりできること。XMANカーのようにターンテーブルに乗ってるクルマとかはダメですが、平置き車はまずほとんどが乗りこめます。シフトノブが外されてるものは多かったですが、それに決定的に違うのは、コンパニオンがいない！（ダレですか？がっかりしてるのは！）そもそも舞台状になっているものがほとんどなく、せいぜいターンテーブルが数台ある程度で、そこに乗ってるのはコンセプトカーくらい。殆どのクルマが平置きなんですよ。で、時々ターンテーブル上にカッコイイおねえさんやおにいさんが颯爽と登場し、まくり立てるように車の説明をします。目にした殆どのメーカーがそういうスタイルでした。そして、台上からの降りに際に誰かがとっ捕まえて質問攻めにしても余裕で答えていて…、要するにちゃんと説明できる人がしゃべってる、コンパニオンがお遊戯して決り文句を言うようなことをしていないんです。これが最大の違いかなあ。これ、ぜひ日本でもマツダが率先してそういう形にしませんかと、まあそんな感じでRX-8とモーターショーを堪能した一日でした。

さてさて、ちょっと長くなりましたので、続きはまた次回ということで…、今回の「更にまたまた番外編！事務担当のつやまの初心者の会—LAの空は青かった、RX-8は黄色かった？編—」（仮題）をお楽しみに！

…ここまで忍耐強く読んでいただいたお礼に、つやまが自腹を切ったプレゼントを。今回のお話の中心LAモーターショーのTシャツ2枚（MとL）をセットで一名さまにプレゼントいたします。ご希望の方は、クラブ宛にハガキかメールで、「LAモーターショーTシャツ希望」と明記の上お送りください。その時に、ご感想やご意見ご質問をぜひぜひ添えてください。しっかり読ませていただいて、当選者を独断と偏見で選ばさせていただきますのでどうかお許しを。締め切りは2月末ということで、ご応募お待ちしております。

（NO.153 つやまけいいち）



【(久々の) 都筑オフ開催！】

ひでまる会長が正月休みに帰ってくるので急遽企画された都筑オフ。正月3日だというのに結構な台数が集まりました。集合場所はいつも通り第3京浜の都筑PA。しかーし今年は現地ではいきなり本降りの雪。ブレーキパッドの交換を目論んでいた強者も居たみたいですがこの天候ではちょっと…ということで早々に近所のファミレスに移動。

ファミレスではいつもの様にろどすたの関連書籍が回覧され…、と思っていたら今回はなぜかRX-8のセールスマニュアルが回覧されてたのが一番のトピックでしょうか。

今回は急に決まったのでメーリングリストだけの告知になってしまいましたが、また突発的にお茶会とかやるかもしれませんので是非ご参加下さいませ。(副会長 わだ)



【イベント情報のご紹介】

まだまだ寒い日が続いていますがそろそろ花粉、いや、春の足音が聞こえてきそうな時期となりました。そうするとさらに聞こえてくるのがイベントのお知らせです。(我ながら強引な導入だな…)

と言うわけで、早速いくつかのイベントの情報が入ってきました。ひとつは4月19、20日に広島で CLUB J58G HIROSHIMA の主催により行われる「里帰りミーティングⅢ」です。URL: <http://www.j58g.com/satogaeri3/>

初日はスキー場を会場としてジムカーナ、フリーマーケット、スケッチコンテストなどが開催され、2日目は里帰りの名に相応しく会場を MAZDA 本社に移し、なかなか入れない場所でゲストのお話が聞けて、普段は平日しか公開されていない MAZDA ミュージアムの見学があり、さらにおそらく「いいモンが見られるらしい」(J58G 関係者談)です。

前は発売直前でまだ触る機会の無かった NB に触らせてもらうことができましたし、NA/NB 両方の貴重な開発資料の一部も見せていただけました。

もうひとつはずっと先ですが、10月24～26日にかけて金沢ロードスタークラブの主催により能登半島を舞台に行われる「Cool Weekend on the Coast in Noto」です。URL: <http://roadster.pro.tok2.com/cwoc/>

こちらはロードスター初代開発主査の平井敏彦さんをゲストに向かえ、足掛け3日に亘って講演・ツーリング・パーティが繰り広げられます。金沢は平井さんが一時ディーラーに出向していた地であり、ご本人もその時期にロードスター開発のきっかけを与えられた、とおっしゃっております。言わばこれも形は違えど里帰りでしょうか？(^^ゞ

さらに先の話になりますが…。今年の清里ミーティングは11月9日に決定しました。去年のあの寒さを思うともう少し早い時期に、という声が聞こえてくるのは重々承知していますが、会場の都合があったりモーターショウのからみがあったり、と言うことで御理解いただきたくお願いいたします。(最敬礼)

と言うわけで、4月開催の里帰りミーティングⅢはすでに申込みが始まっていますし、私は申込みを済ませました。(^^ゞ

J58G 里帰りミーティングⅢ 事務局電話番号 090-****-****

担当: 對川(つがわ)、北(きた)

受付時間: 10時～12時 / 13時～17時

能登のミーティングはまだ半年余りあることもあって、申し込み受付開始は4月からと言うことです。

清里は…まだまだこれから決めるところです。(汗)

今後とも会報上でミーティングの紹介をしていきたいと思っておりますので、皆さんが主催したりお手伝いしたりするイベントがありましたら事務局までお知らせ下さい。(豆蔵@2002 清里ミーティング実行委員長 No.529)

【お便りコーナー】

本年もどうぞよろしくお願い致します。写真のガケは沖縄の万座ビーチ付近のガケですが、実は私の旦那様が店(ショットバー)を始めたので、経営がガケっぷちにならないよう、がんばります…、って私は店に出てないのですが…、熊谷にお越しになる機会がありましたら、是非お立ち寄りください。(仲田はるみ)

Shot Bar toranoana (トラノアナ) TEL:048-***-****

あけましておめでとうございます本年もどうぞよろしくお願い致します。今年は新しい生活がスタート(たぶん)です。

(長谷川浪次郎)

【希望ナンバー、取ってみました】

自動車の登録ナンバーを自由に選べる「希望ナンバー制度」が始まって早5年。どうも今までのナンバーは思い入れもないためか、なかなか覚えられず、駐車場の管理人のおじさんに「番号いくつ？」って聞かれても、アワアワワとすることも多いワケでして…(笑)。そんな折り、知人が自分で希望ナンバーに変更したら案外簡単でしかも安くできた聞き、私もチャレンジしてみることにしました。

希望ナンバーに変更するにはいくつかの手順を踏むことになりますが、まずは自分の希望する番号を陸運局に予約することからはじまります。私は直接陸運局へ予約をしに行きましたが、時間がなくて行けないという場合にはFAXまたは郵送でも受け付けてくれます。ただし、この場合申請費用を銀行振り込みする必要がある、入金が確認されないことには正式に受理されない、手間という点ではどちらもそれほど変わらないかもしれません。また、自分が希望する番号が必ずしも選べるとは限らず(関連情報: <http://www.mlitt.go.jp/jidosha/kibono/kibono.html>)、例えば「777」や「555」などのいわゆるゾロ目や、縁起が良いとされる人気の高い番号は月に数回行われる抽選となるケースもあります。ちなみにひらがなの部分は選べません。

さて、初日に陸運局に行ってやったことは、敷地内の「自動車会議所」で発行している希望ナンバー専用の記入用紙に希望する番号を記入し、登録ファイルと照会し抽選の必要や予約ができるかを確認。私の場合、一般的に人気のある番号ではなかったのですんなりと予約が完了。その場で交付手数料の4100円を支払い「希望番号予約済証」(画像参照)を受けとり初日はすんなり終了しました。ごく一般的なペイント式ナンバーのため出来上がるのは5日後。案外早いんですね。さらに希望ナンバーが交付されるまでの間に最寄りの警察署で車庫証明を発行してもらい準備万端。が、この車庫証明は後で衝撃の事実が判明することには!?

さて希望ナンバー交付当日、ふたたび陸運局へ行き今度は登録ファイル上の番号変更をするマークシート(30円)を購入。必要事項に記入後、同じ陸運局内にある県税事務所へ行き自動車税を払ってあるという「納入証明」をしてもらいます。こうしてできた書類を窓口にて提出という時にひとつバカなことが判明。それは私のケースの場合、車庫証明が必要なかったのです。というのも最初に登録したときの使用の本拠地も車庫の場所も変わっていなかったのです。必ずしも「ナンバー変更＝車庫証明は必要」ではないというコト… これで数千円がムダになってしまいました(泣)。よく考えてみれば当たり前ですよ。思い込みとはとてもコワイものです。逆に言うと、引っ越しなどで保管場所(車庫)が変わっていた場合、新たに車庫証明書が必要になるので注意が必要というコトです。

さらにもう一つ、記入欄にはナンバーを変更する理由を書く項目があって、ここを正直に「番号変更のため」と書いたら書き直すように言われました。陸運局の方が言うには、厳密にいうと「番号を変えたいから」という理由はいけないうのだとか。「それだと書類上問題があるんで、理由は違うけどナンバー破損とかにしておいて」と。いや、ほんとに今のお役人は話が分かるものです(笑)。また書類でもう一つ注意点があります。車検証の所有者と使用者の名義が違う場合(例えばローン会社やディーラー名義など)、所有者の委任状が必要になるので注意が必要です。該当する方は希望ナンバーの予約が完了したら所有者に委任状の請求をしておきましょう。



リアナンバーの封印外しはなかなかできないので快感かも(笑)

です。ツウのロードスター乗りの間では初代を「ゴーハチ」、NB型を「ゼロナナ」と呼びわけているもので、もしロードスターでこの「58-07」を見かけたら、その人は相当なマニア、いやいや変態!?!?と思ってもいいかもしれません(笑)

変えてみたいコダワリの番号がある方には希望ナンバー制度使わない手はないのでオススメですよ。(NO.502 高根久貴)



これが「希望番号予約済証」。ちなみに希望予約番号の有効期限は1ヶ月。

さて、書類の提出が完了しOKが出たらクルマへ戻り、今までお世話になったナンバーを取り外します。希望ナンバー専用の窓口で古いナンバーを持っていき、待望のニューナンバー「58-07」を受け取りました。番号の意味は後で説明しますね。さく自分で新しいナンバーを前後につけたら、リア側の封印を陸運局のオジサンが付けてくれてすべてが完了しました。

この日にかかった費用は結局マークシート代のみ。名義や車庫の変更などなければトータルで4130円だけで希望ナンバーに換えられるんですね。意外に安いかも。

さて「58-07」という番号の意味について説明しましょう。ERF Cのメンバーの方ならすでにご存知かもしれませんが、この番号はマツダ社内につけられているロードスターの開発コードをヒントにしました。「58」

はNA型ロードスター(初代)の社内コード「J58」から、「07」はNB型(二代目)の社内コード「J07」からとったもの



通常のペイントで人気の高い番号でなかったため、わずか5日で希望ナンバーが交付されました。

【淑女組通信、番外編？】

別稿の通り、我が家は1月初旬に、マツダ(株)さまのおかげでロサンゼルスへの旅行に行ってきた。メインの話はダンナに任せるとして、ワタシの方は旅行中のコボレ話を少々…

＜プロローグ＞

最初のお知らせがあったのは昨年11月のある夜だった。「マツダ株式会社のカノウと申しますが…」ダンナ宛だ。まだ帰っていないぞ。(また展示会のお知らせかな?)と思いつつ、話を聞く。「ロサンゼルスモーターショーのレポーターという企画にご主人が応募されまして…」しかし良い声だなあ…む?今なんと??「で、ソレに…当たっちゃった、ん、ですか?」「おめでとうございます(笑)」オーマイガーッ!

＜出発のどたばた＞

連絡があってから1ヶ月以上はあったはずなのだが、あっという間に出発の日が来た。世間は仕事始めだが、ワタシは相変わらずの無職なので関係無し。しかしダンナは関係あり、ということで駅で待ち合わせ。少し早めに家を出て、二人分の弁当を買いこんで待機である。やがてスーツにコート姿のダンナがやってきた。予定通り成田エクスプレスに間に合ってほっと一息。空港で、あらかじめ送っていたスーツケースを受け取って、ダンナは旅装にお着替え。マツダの人にも他の当選者にも会わなかったけど、とにかく無事に国外脱出成功。ああ、ドッキリじゃなかった!

＜美味しい全日空＞

エアは全日空。二人とも初めてである。新しいヒコキなので、エコノミーでも座席毎にテレビがついており、映画やゲームが楽しめる。しかしいつだって大事なものはゴハンだ。食事がまずいと他もすべて台無しである。その点、ANAは合格!味付けも品がよく、どれも美味しい。なかなか幸先は良さそうである。

＜ロス到着＞

到着は現地時間の9時すぎ。ゲートを出ると、マツダの人と旅行会社の人が待っていた。他の当選者の人たちも既に揃っている。では、とバスに向かったが…示されたバスのでかいこと!40人は乗れるぞ。ほんとにコレ?コレに、我々だけ?またもや、オーマイガーッ!である。

＜旅は道づれ＞

マツダの人は狩野さんと名乗られた。電話をくれた人である。声もいいけど、うーん、グッドルッキング♪同行者は6名。我が家と年代(?)の夫婦らしきカップル、やや年配の女性と青年、そしてうら若い美女二人組という顔ぶれ。とりあえず不気味なおタクや、礼儀知らずの若僧はいないようなのでほっとする。とりあえずは、お決まりの市内観光に突入だ。

＜いいんですか?その1＞

まずはサンタモニカ。ゆっくりと散策して、「外国」にきたことを実感する。昼食はダウンタウンの有名中華料理店。(持ってたガイドブックに載ってる店だったのでビックリ)しかし、この量は何?!移動の疲れであまり食べられなかったが、たとえ絶好調でも完食は絶対ムリ。聞けばこちらでは多めに出して、客は平気で残すのだとか。アメリカは「もったいないおぼけ」が一杯いるに違いないぞ。たるむまぶたを閉じさせまいと、次に案内されたのはドジャースタジアム。シーズンオフだが、いつでもタダで見られるし、グッズショップも営業中。しかし景色がすばらしい!「全米一のスタジアム」の名は伊達じゃない。もしLAに行かれるならここは必見である。これで観光は終了、宿のビバリーヒルトンホテルに到着。おお、豪華。でも周囲になにもない。ホント、クルマがないとツライ街なのね、LAって。

＜もう食べられません＞

夜はホテルのレストランでミーティングを兼ねて食事会。ここで初めて各自の自己紹介。同年代のカップルはやはりご夫婦でNさん。美女二人は友人同士でOさんとBさん、残る一組は母と息子でMさんと名乗られた。初日というのに妙に盛り上がり、既に和気あいあい。しかし!ここでも出された料理の量はハンパじゃなかった…何品か出て、いいかげん満腹になったところに、ガツンとステーキ登場!それもワタシの拳よりでかい…アメリカらしく赤身で、高級レストランらしく肉も焼き加減も絶妙だったのに、とても食べきれなかった。そしてとどめに激甘アイスの激甘チョコがけが出て、出席者全員KO。こりゃアメリカ人みんな通信販売で健康器具買うわな…

＜隣りの芝生は青かった＞

モーターショーはダウンタウンにあるコンベンションセンターで行われている。隣りは「ステープルズセンター」。NBAの試合が行われることで有名で、その日はたまたまレイカーズの試合があるという。行けるものなら、とダンナに偵察に行ってもらったが、1人115ドル(!)と160ドル(!!)のチケットしかない、ということで断念。後日聞いたところでは、その試合は何やら新記録が出たとかですごく盛り上がったらしい。うーっ、残念。

＜メインイベント＞

LAのモーターショーは東京とはなんらかずいぶん雰囲気が違う。平日の午前中のせいか、年齢層が高い。白髪のじーちゃんが目立つ。なおかつ、そのじーちゃん達がRX-8にわらわらと集まってくる。うーんかっこいいぞ、アメリカのじーちゃん。しかし、ウンチクを延々と語るところは人種を問わないのね…。車椅子の人も多いし、通路も広いし、クルマは触り放題でかなりゆったりした雰囲気。東京のショーには必ずいる露出度の高い女の子は一人もいない。その代わりに革ジャケットにパンツ姿のかっこいいお姉さんがクルマの説明をしている。しかし11時開場で夜10時半までやっているなんて…しかも入場料5ドル!日本もこういうところは見習ってほしい。

＜いいんですか?その2＞

開場とほぼ同時に入場して、出てきたのが4時。さすがにくたびれた。しかしNさん夫妻はまだ見足りないということでここから別行動。残りの6名は例の大型観光バスでホテルへ戻る。その途中、同行者から「スーパーに行きたいけど、ホテルの近くにあるかなあ?」という声がある。あーだこーだと言っていると、突如バスが道を外れた。見ればそこはまさにスーパーの駐車場。さすが少人数のツアー、なんでもありだ。地元の普通のスーパーに観光バスが入ってきて、外国人が降りてきたので、周囲の人々の驚いた視線が刺さる。しかしめげずにお買い物だ。うちは飲み水とビタミン剤、それにお菓子を買ったぐらいだったが、美女二人組のひとりO嬢は200ドル以上もお買い上げだったとか(一体何を買ったのか…)。これ以降、彼女には「買い物クイーン」という称号が与えられた。

<おしゃれ、なんですかねえ>

ホテルに戻れば自由行動。とはいえどこに行くのもクルマでないとままたぬ土地柄ゆえ、結局みんなで出かけることに。タクシーに分乗してサンセット大通りに向かう。ここは地元の若者が集まる夜遊びスポットだそうで、東京ならさしずめ青山あたりか。街をぶらついて、夕食の場所を捜す。やがてとあるホテルのレストランに入ることになった。しかしここが物凄く変わっている。「The Standard」という看板は出ているのだが逆さまだ(Standard じゃないってことね)。中はホテルというよりは最先端のおしゃれな美容室といった感じ。極めつけはフロントの背後で、長さ2mほどの水槽に若い女の子が入っていて(水は入ってない)寝そべって本を読んだり、髪をとかしたりしているのだ。不思議…我々が食事した場所も屋外のプールサイドで、照明はテーブルのろうそくのみ、ガス灯で暖をとつつ食事という状態だった。聞くところではここは今、大人気の場所だとか。文化が違うなあ…

<なんでこんなに>

3日目はマツダのデザインセンター見学である。ホテルからバスで1時間ほどの移動。大型バスなので、乗り心地は良いはずなのだが…よろしくないのだ、これが。常にガタガタ細かく揺れてる状態で、乗り物酔いし易い人にはちょっとキツイ。これはバスのせいではなく、道路のせい。とにかく、どこもかしこも道はボコボコ。こちらでは通れなくなるまで整備工事はしないということで、この状態が普通らしい。アメ車の足回りが柔らかいわけだよねえ。

<どれだけ太ればいいんですか>

デザインセンター見学は非常に楽しかった。親切に質問に答えていただいて、満足して帰路につく。途中のニューポートビーチでメキシコ料理の昼食をとる。最初に出てきたのは直径15cm高さ20cmほどのブリキのバケツに入ったトルティーヤ…悪い予感が一同に漂う。続いて小さなサラダ…大丈夫かな、と思ったところで、ソレはやってきた。トルティーヤと同じ大きさのバケツから大きくはみだした、こんがり揚げたカニの足、そしてロブスター！一同、手を油だらけにしてカニやエビ達と格闘する。なにしろ美味しいので、つい一生懸命闘ってしまうのだ。なんとか半分ほどカニを片付けたところで、その下にどどんと炭焼きのチキンを発見…またもや無残な敗北を喫した日本人たちであった。

<こっちはおまけなんですけど>

デザインセンターの帰り道、免税店に行かない我々のためにショッピングモールでお買い物タイムが設けられた。しかしなんだこの広さ！デパートが8つにショップが300って…それも高級ブランドがぞろぞろ。全米で売上高一番というのも納得である。ブランドに縁のない我が家は「ほーほー」と眺めるだけだったが、買い物クイーン達は不満ぶうぶう。「ぜんっぜん、時間が足りないわ！」…気持ちはよくわかりますが。

<これでもVIPです>

最終日はユニバーサルスタジオへ。買い物クイーン組を除いた6名で、バスと地下鉄を乗り継いで向かう。行きの交通費は一人1ドル65セント。しかし実はVIPチケットなるものを予約済みなのだ。チケット代は一人95ドル。ゲートをくぐった瞬間に気分は優雅なVIP…着てるのはユニクロだが。ちなみに帰りはホテルまでタクシーに分乗。

<恐怖？のセキュリティチェック>

あのテロ事件以来、アメリカの空港でのセキュリティチェックは非常に厳しくなったという。微に入り細に入り、荷物の隅まで調べられ、靴まで脱いだあげく別室行き、というも珍しくないらしい。そのために飛行機に乗り遅れてしまうこともあるとか。大事をとって、我々一行は離陸時間の3時間前に空港に到着した。まず荷物をチェックに出す。X線で内容を調べている。さあいつでも開けますよ、とカギを持って構えるワタシ。…はあ？OK？開けないの？なんとまあ。ダンナのソフトケースは一応開けられたが、ざっと眺めただけ。いやー、人畜無害なカオなんですねえ、ワタシたち。隣では日本人カップルがあらゆる荷物をひっくり返されて半泣きになっているのに…ボディチェックも一発OK。でも靴を脱いでいる人も確かにいた。で、結果として搭乗時刻までたっぷりひとまが…いい人もツライなあ。

<エピローグ>

10時間あまりのフライトを乗り切って、たそがれの成田に無事帰国。日本は…やっぱ寒い！荷物を受け取るや早速開けて、コートを取り出す。このコートをしまい込んでから取り出すまで、ほんとにあっという間に思えて…あー、楽しかった！マツダ様、またよろしく願いいたします…と、広島方面を向いて祈る我々であった。(つのやま けいこ)

【編集後記】

じつは…、ヒジョーに情けない話なんです、骨折しました。チャリ通勤なんです、12月3日の朝、会社に向かう途中で前を走ってた自転車に追突してコケてたんです…。顔面から着地して「イテーッ」って手を当てようとしたら、指がいつもと違う向きに曲がってるじゃないですか!!! 指が折れてる以外は、顔と膝をすりむいたくらいだったんだけど、見てたおじさんが救急車を呼んでくれちゃって、病院まで運ばれちゃいました。たった指一本と思ったんだけど、やっぱりすげー不便でした。正月に帰省したときも会社のクルマ(オートマパワステ)を借りて帰る始末。でもそのおかげで荷物がたくさん載ってうれしかったんですけどね。

で、最近ようやくフツの生活をなんとかできるようになってきたところ。というわけでこないだやっと、2ヶ月ぶりくらいにミニに乗りました。道が空く夜になるのを待って、ゼータクにも初めてハイオクを入れてやって、ちょっとドライブ。たしか、怪我をする前にポイントのギャップが狂ってて、直さないまま乗ったら案の定まともに走りません(あたりまえ)。国道一号をガッコンガッコンしながら、丁寧にアクセルを操作してなだめながら走りました。でも刈谷のビレッジバンガードで立ち読み&お買い物をして帰りはなんだかフツーに走れます。ミニも骨折といっしょに自然治癒したみたい。

右の写真は最近のミニの様子です。ホイールをワタナベの8本スポーク(マグネシウムです!)にしました。やる気あるんだかないんだかわからない仕様。タイヤがちよとはみ出しちゃってます…。(No.590 ひでまる)

